

摘 録

会議名 令和7年度第2回刈谷市歴史博物館協議会
日 時 令和8年3月8日（日） 午前10時30分～午後0時15分
場 所 歴史博物館 1階講座室
出席者 協議会委員：西宮秀紀（会長）、堀江登志実、山本智子、山田孝、真島聖子、
金子一郎、戸田和晃、和田誠、近藤香代子、成田年秀
事 務 局：鈴木館長、新田館長代理、長澤学芸員、山下学芸員

内 容

1 議題

（1）令和7年度（令和8年1月まで）の状況について〔資料1〕

（A委員）（企画展の）子どもたちの戦争のところにナイトミュージアムとあるが、目的や効果の検証はされているか。

（事務局）例年夏休みの期間に、親子連れなどに楽しんでもらうため開催している。今回は3世代、お爺さん・お婆さんと一緒に来てもらうということを想定して実施した。ナイトミュージアム開催中にイベントを併催。企画展に合わせたクイズラリーの案内をした。評価については、子ども向けの工作など多くの方に参加いただけている。

（B委員）愛知教育大学との連携イベントはどういう状況であったか。

（事務局）連携イベントは今年度で3回目。社会科のゼミの学生が博物館を使って子どもたちがゲーム感覚で楽しめるような企画を立案。事前募集で実施。小・中学生対象で15人参加。学生がついて気づきを促すなどしながら進めてもらっている。

（B委員）学生にとっても良い機会となっているのでは。

（事務局）子どもに楽しく歴史を体験してもらうための工夫と、学生が子どもの視点に立ちどういう仕掛けをすると理解が深まるか実験的な試みもでき、（博物館・学生）双方の学びの機会になると考えている。

（C委員）収蔵品管理システムの整備、学芸員の業務が多忙な中で、なかなか進まないと思うが、公開に向けた取り組みはどの程度進んでいるか。

（事務局）古文書は新たに受け入れているものは順次撮影してデータ化している。ただし、以前より館蔵となっている文書の多くは撮影できていないのが現状。これからデータ化していく必要がある。歴史資料も新規収蔵資料は撮影しながら収蔵庫に納める流れで作業を進める。

(C委員) 刈谷の資料の所在を知りたいときに、今は博物館に行くしかない。そのとっかかりとしてオープンになっているとありがたいので、その辺りも是非進めて欲しい。

(D委員) 何年ぐらいを予定して進めているか。

(事務局) 今の所、目途が立てられていない。元となる目録の整備が必要。

(D委員) 業務多忙の中で古文書の整理はどこ自治体でも困っていると聞く。後回しになると公開はどんどん先に延びて行くので、年次計画を策定されると良いのでは。

(E委員) 海の学びミュージアムサポート支援事業の助成金を活用されて「海の縄文山の縄文」を開催されたが、博物館として外部資金を得て事業を行ったのは今回が初めてか。

(事務局) 過去、文化庁の国宝・重文の貸与促進事業や地域ゆかりの文化資産活用事業の支援を獲得して実施しており、今回は3回目。その他のところで説明したものは別のプログラムとして、来年の秋の企画展の基礎研究としての意味合いも込めて研究補助を受けている。

(E委員) 外部資金を受けたメリット・デメリットは。

(事務局) 資金的な補助を受けて内容の充実を図ることが出来るのはメリット。プログラムに他館との連携なども盛り込まれており、通常なら博物館同士で連携を進めるところだが、「海」をテーマとすることから碧南海浜水族館とも連携するなど連携の幅が広がった。デメリットは、仕方ないことではあるが事務量の増加。それでも今後も取り組んでいかなければいけないとは考えており、事例が増えてきている。

(E委員) いつも獲得できるなら良いが、獲得できるかわからないこともある。持続可能性と業務負担のバランスなど全体として外部資金の獲得をどう見るか。

(事務局) 取捨選択や優先順位をつけるなどコントロールをしていくことが必要。当館としては、まずは館自体の魅力を高め皆さんに知っていただく、ファンをつくり理解して応援したいと思ってくれる人を増やしていくことが持続化が可能になるすべと考えられる。

(2) 令和8年度の予定について [資料2]

(F委員) 市内小中学生館内見学は毎年開催とは別に、希望があればイベントごとに実施されているということか。なるべく子どもたちが体験する機会が多いと良いが。

(事務局) 授業計画があり、来るときはだいたい学年単位。見学を組み込んでいただくこ

ともあるが、来るための交通手段確保が難しい。

(F委員) 最近、遠足などもなくなってきた。小中学校も効率化、やらないといけないことだけやるようになってきているが、せっかく博物館・郷土資料館・亀城公園もあるので何か取り組んでもらいたい。

(G委員) 小学校3年生の郷土資料館見学はバス代を市が負担しているが、この他にさらに見学をというのは大変。

(H委員) 交通集団が大変。保護者の方からお金を徴収させていただき…となるかなりの額になってしまう。市がバスを出してくれますよという機会に上下水道を見に行くなどの機会に合わせて時間を調整して行っているが時間設定が難しい。歩いて行く遠足はやっているが、バスでというのは難しい状況。機会を見て検討したい。

(G委員) 逆に学芸員が学校に出かけるというスタイルが出てきていると思うが、学校の方も忙しいのか授業以外に時間を取ることが難しい状況か。

(H委員) 授業で来てもらうことが一番多いが、授業の進度がむずかしい。急に入れるということはできないので、指導主事からの紹介・提案があるので、今後増えていくと思われる。

(D委員) 是非宣伝をしてもらいたい。

(C委員) 河海を往く展について、内容的に境川・逢妻川について、河川舟運はあるのか。

(事務局) 逢妻川については土場に関する資料がある。陸上交通との結節という部分を出していく。

(C委員) 舟が遡上していくというモノの流れ、矢作川や豊川に比べ細い川なのでそういうものがあるかどうか。むしろ衣浦湾・知多半島の湊を拠点として流通を狙うなどどのあたりをポイントとするかお聞きしたい。

(G委員) 史料的にはっきりしないが、築地の熊野神社などは川から入ってきて云々という伝承がある。企画展では近世までとなっているが、泉田では子どもの頃、船で高浜の方に貝を取りに行っていたという。かつてのそういう話が消えて行ってしまう。近世だけでなく、もう少し後まで碧南の辺りまでの繋がりを見ていく必要がある。奥地との繋がりでは、塩付け街道が土場から拳母の方へ行っていたと言われる。それがストレートに長野まで運ばれたという話になってしまっている。そうは思えないが、拳母の辺りまで荷物を運んだのは間違いのないのでは。そのようなところが出てくると良いと思い楽し

みにしている。

(事務局) 伊勢湾との繋がりを見ているので、内陸奥深くまでというのは難しい。企画展内では反映できないが、泉田から塩付け街道が伸びているという話は、ミニ展示で展示する東境村絵図を見ると信濃に続く道という注記があるので、当時の人の生活として挙母までではなく信濃までの経路が意識されていることがわかる。

(D委員) 伊勢湾につながる海運となると塩が大きなキーワードになるのではないか。

(G委員) 中条遺跡は製塩土器が非常に多いとされる。猿渡川を遡上して運ばれていく、その辺りもはっきりしてくると面白い。

(D委員) 物流がひとつのポイントになる。物流で何を取り上げられるかがポイントになると思われるが、その辺りも考えられると良い。

(B委員) 刈谷城の発掘については。

(事務局) 開発の前段として実施する発掘調査である。

(B委員) 調査期間はどのくらいか。

(事務局) 来年度1年となる。詳細はこれから県と協議して進める。

(I委員) 博物館かわら版を市内小学校に配布とあるが、イベント情報が載せられたものを配るとのことか。学校に置いてあるのかそれとも子どもに配布か。

(事務局) 市内小学生に配布していて、小学生が参加できるようなイベントや企画展を紹介している。

(I委員) 北部は遠いのでそのように知らせてくれると良い。

(事務局) 紙配布なので、家庭でそれを見て参加されるという方も多い。

(E委員) アジア・パラ大会に関連して、スポーツについては企業も力を入れているところがある。愛教大も体育講座があり、体育をやっている先生はする・みる・ささえるをポイントに置いてスポーツがただするだけでないと考えて学ばせている。経済効果や地域振興、地域づくりに関心をもつ者もいる。スポーツ展が無料で開催されるので、小・中・高・大学生や企業の方などファンを増やせる機会になると良い。

(事務局) 企画の一番の動機としては、刈谷球場で高校野球の予選をやっている時期になるが、応援する方々が、駐車場がこちらにあるが博物館を素通りしていくというのがある。スポーツ用品を展示するというのはウイングアリーナなどでも展示があるが、それでは歴史博物館の展示にはならない。歴史博物館では“する”よりも“みる、ささえる”

も大事。トロフィー・賞状を並べるだけでなく、応援グッズをお借りするなど企業と話をしている。面積的な制約もあるが、例えば野球を見に来た人が、刈谷はサッカーの町で、企業スポーツもたくさんあるんだと知ってもらえるようにと計画している。

(G委員) スポーツは今回初めてなので、やるのは今回でなくとも良いが、資料は集めて行ってもらいたい。チームが減っているようだが少年野球が盛ん。少年サッカーや女子のミニバスケット…そういうのも記録に残しておかないと忘れられてしまう。今回の展示でなくても良いので、頭の隅に置いておいていただけるとありがたい。

(事務局) 少年野球はまだ手が出せていないが、資料がな捨てられてしまうということは実際ある。話をする中で、残しておくことは大事だという機運を高めていくことや、今ある資料を残していくことが大事だと啓発していくことはしていきたい。学校に関しては、刈谷高校は記念館があるので比較的残りが良い。小中学校は、この後の取組みとして学校資料を集める中でということになるかと思う。

(D委員) その辺りの啓発も進めてもらいたい。

(C委員) 富嶽百景は業者からの持ち込みの企画か。

(事務局) パッケージの企画を依頼され当館学芸員が企画したもの。今後パッケージとして売り出されていくもの。

(C委員) ある程度内容的にこちらの意見が入っているということか。

(事務局) その通り。

(C委員) 完全なパッケージを利用することも学芸員の負担軽減のためには良いと思うし、そのような形で業者がある程度介在して進めるのも良いと考える。

2 その他

(1) 研修報告と事業評価について[資料3]

館長代理新田が参加したミュージアム・トップマネジメント研修の内容をふまえ、歴史博物館の事業評価について報告した。

(E委員) (11・12 頁について) 東京国立博物館・科学博物館のようにワンフレーズで刈谷市歴史博物館のことがわかるものがあると良い。長期、ここ10年をかけて目指していく者がワンフレーズで出てくると取り組みもそこに関して優先順位が決められ、資金を調達し、研究を進化させていくというビジョンが示せる。そのためには刈谷市歴史博物

館の魅力とは何かを問い直さなければならない。

(事務局) 事例に上げた館も強み・弱みの洗い出し、検討してワンフレーズにまとめたので、その辺りをやっていかねばならない。

(2) 次回の協議会日程について

(事務局) 次回は令和8年5月頃を開催する。